共同運営部門：国際センター

＜スタッフ紹介＞

役　　職	スタッフ名
国際センター長	舩津　俊宏
国際医療広報センター長	南谷　かおり
国際診療支援センター長	荻田　和秀
国際診療支援副センター長	川島　孝太
看護師	3 名
国際医療コーディネーター	4 名
医療通訳者（シフト制）	14 名
他スタッフ	1 名

＜特色と概要＞

2006年4月、関西国際空港の搬送先指定病院のひとつである当院に、「国際外来」が開設された。近隣に外国人居住地を含むこともあり、外国人患者対応の必要性が高まるなか、常駐スタッフの充実を図り、2012年11月から名称を「国際診療科」に改めて再スタートした。その後、2025年4月、組織改編により「国際センター」を設置。「国際診療支援センター」と「国際医療広報センター」の二部門に分かれた。

国際医療広報センターは、外国人医療に関わる人材育成、教育、国内外からの研修生や医学生の受入、研究発表、国や大阪府の外国人患者検討委員会に参画、取材対応など、地域レベルの外国人患者対応にとどまらず、広範囲で外国人受入の環境整備が進んでいくよう働きかけていく。

国際診療支援センターは、医療通訳サービスの提供、院内資料の翻訳、受診に関する問い合わせ対応など、外国人が安心して医療を受けられるよう様々な支援業務を行っている。

医療通訳サービスは、当院を受診する外国人患者に対し英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語の5言語で受付から検査、診察、会計まで付き添い通訳を行うもので、患者は無料で利用できる（人間ドック等、自由診療の通訳は有料）。診療の必要な場面で医療通訳が介入し外国人患者と医療者のコミュニケーションの橋渡しをすることで、言葉が通じないことによるトラブルを未然に防ぐと同時に、満足度の高い医療の提供に繋がっている。最近は、ベトナム、バングラデッシュ、スリランカ、ネパール人患者やその他希少言語の患者が増加傾向にあり、また、全く日本語が話せない在留外国人の家族の受診や分娩が目立つようになっている。夜間、週末といった時間外や希少言語の対応については、電話による外部の遠隔通訳サービスを利用している。

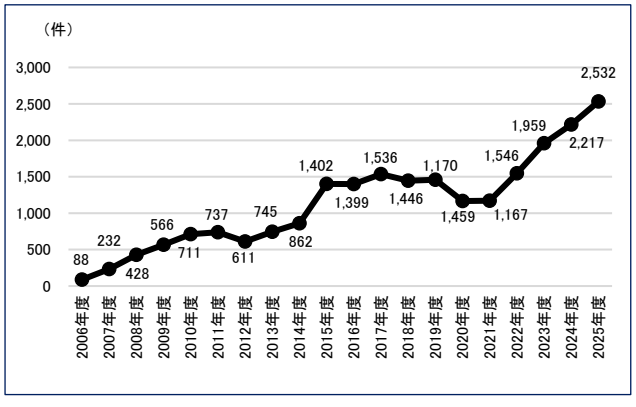
通訳コーディネートを始め、外国人患者が円滑に安心して受診するために必要な各種調整・サポートは、当センターの国際医療コーディネーターが中心となって担当している。訪日観光客は日本の医療の仕組みに慣れておらず、日本の公的健康保険にも加入していないため、受診の流れや医療費について事前に説明が必要となるなど、日本在住者とは異なる対応が求められる。

当院は医療通訳者の実地研修が行える全国的にも数少ない医療機関の一つであり、2015年度からは大阪大学主催の社会人向け医療通訳養成コースの実習先にもなっている。今後ますます需要が高まると思われるこの分野において、当院は「現場に根差した」医療通訳者養成という重要な役割を担っており、同時に、多言語を話す医療者のバックアップのもと、「常駐型」の医療通訳サービスを提供していることも当院の特色の一つである。

なお、外国人患者受入れ体制に関する外部評価として、当院は「外国人患者受入れ医療機関認証制度JMIP」の認証を有している他、大阪府外国人受入れ拠点病院や厚生労働省による「医療機関における外国人患者受入れ環境整備事業」の拠点病院に9年連続で選定されている。拠点病院になると、医療通訳者やコーディネーターの活用等にもメリットがある。

＜実績＞

(1) 2025年度別通訳件数の推移



(2) 2025年度言語別通訳件数

言語別通訳件数	
中国語	798
英語	748
ベトナム語	417
スペイン語	217
タガログ語	104
ポルトガル語	49
その他	244
合計	2,577

※一人の患者に対していくつかの言語で対応する場合は別で数えている。

(3) 2025年度内容別通訳件数

内容別通訳件数	
診察	1,631
説明・相談	480
検査	364
会計	330
電話問合せ	177
受付	140
問診	137
薬処方	127
処置・手術	87
予約	21
看護業務	13
その他	154
合計	3,661

(4) 2025年度診療科別通訳件数

診療科目別通訳件数	
産婦人科	752
救急科	303
小児科	218
糖尿病内分泌代謝内科	138
循環器内科	134
消化器内科	120
泌尿器科	120
救命診療科	118
整形外科	106
耳鼻咽喉科頭頸部外科	96
外科	84
総合内科･感染症内科	62
健康管理センター	61
形成外科	55
口腔外科	45
脳神経外科	34
腎臓内科	32
血液内科	25
眼科	21
放射線科	18
呼吸器内科	15
麻酔科	9
脳神経内科	6
国際診療科	5
呼吸器外科	4
心臓血管外科	3
放射線治療科	2
合計	2,586

※一人の患者が複数診療科受診する場合あり。

＜国際渡航ワクチン外来＞

国際渡航ワクチン外来は、総合内科･感染症内科と国際センターが共同で行っている外来であり、国際渡航ワクチン外来の受診件数は298件だった。接種ワクチンの内訳を見ると、最も多いのが黄熱で、171名に接種した。次いで狂犬病、A型肝炎、B型肝炎、破傷風、腸チフスと順位は昨年度と変わりなかった。

現在当院で用意している輸入ワクチンは、Boostrix®（成人DPTワクチン）である。また、ワクチンの説明、接種のみにとどまらず、安全で快適な海外滞在を支援するために、海外での疾患流行状況や医療機関、防蚊対策、ダニ刺咬対策等幅広い情報提供を行っている。

内服薬の処方も可能となっており、マラリア流行地域への渡航者にはマラリア予防内服薬(アトバコン/プログアニル合剤、メフロキン)を、高地へ渡航する渡航者には高山病予防薬(アセタゾラミド)を処方している。

渡航制限が緩和された2022年度から外来受診者数は増加傾向であり、仕事や帯同家族としての渡航に加え、観光目的の渡航も増えてきている。

当院は関西国際空港の対岸に位置しており、海外へ渡航する方々の出国から帰郷までを見届けることのできる医療機関であり、当院における本外来の役割は重要である。今後も総合内科と協働し、国境を越える人々の健康保全に努めたい。

＜今年度の成果と来年度への抱負＞

2025年度は、外国人患者に対して安定した医療提供に努め、通訳対応件数は過去最多となった。次年度も訪日外国人の増加が見込まれる。増加する外国人患者への受診支援や帰国調整、未収金対策に引き続き取り組むとともに、円滑で安全な医療提供体制の充実を図っていきたい。